

残したい場所

崖線という緑地 そして 田んぼ

今、深大寺周辺は建築ブーム

植木畑が、森の中の屋敷が、崖線の大きな家が、あの麦畑が・・・住宅で埋まっていく。最初は、調布駅周辺や、準工業地域での大きなマンション群の建設で、緑にそれほど大きな影響を感じなかった。その後、国分寺崖線の山を登り、ついに寺の谷の中に入ってきた。そのほとんどは戸建のミニ開発。「深大寺ブランド」で売っている。ブームは分かる。新宿から調布駅まで15分。便利だ。また、地主さんは相続。戦後の移住第一世代は、いくらか広い屋敷を資産化し老後の生活設計に。買う側、売る側双方の事情が合わさり、このブームだ。

だが、この谷の環境は他に代えがたい。猛暑の都心から

夜この谷に帰ってくると、驚くほどひんやりしている。また、からっ風の吹く時期でも、空気は肌に優しくしとりしている。ここの地形と水と緑のなせる業だ。賑わい日、夕暮れ時の山門前付近はどう見ても地方の小都市か、昭和30年代だ。こんな場所は、他に山地部を除き東京にあるか。絶対残しておくべき環境だ。莫大な富を貯めこんだ「大東京」がこんな小さな谷の環境をコントロールできないでどうするのだ。全てのケースで、それぞれの事情があるのであろう。対応できる制度や人も限られている。でも、噂話でもいい、みなで声を出し、知恵を出し、何とかしたい。

小林 (運営委員、深大寺元町在住)



深大寺小南の崖を水生植物園から見たところ。上の方に不動産会社の看板が立っていた。いずれビルが立つのか？



佐須図書館東側。田畑だった所がいつの間にか住宅地に。

都心に一番近い「里山」の一日体験

と題して調布のお米を食べ、カニ山周辺で楽しみながら自然環境の保全を考えるイベントを行います。日程等、詳しくは次号、または市報11/5号を御覧下さい。

(ちょうふ環境市民懇談会・調布市共催)

調布の自然

昆虫編

ヒメスズメバチ

今年は夏が短かった割に、秋はきっちりと暦通り訪れてきました。

比較的夏の早い時期から出現しており、感覚的には「夏の虫」という印象が強いにもかかわらず、実際には秋に活動が活発化する昆虫の一つに「スズメバチ」があげられます。

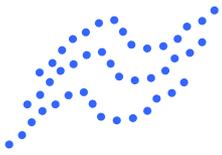
日本に生息するスズメバチは、大型のオオスズメバチから小型のクロスズメバチまで、3属16種が記録されています。このうち、調布市でも普通に見られる種類として、コガタスズメバチ、ヒメスズメバチ、キイロスズメバチ、クロスズメバチ等があげられます。

8月に「都市森の丘」で開かれた昆虫教室でも見られたヒメスズメバチは、本州に生息するスズメバチ類の中では、

南方系の種類です。巣は樹洞や鳥の巣箱等の閉鎖空間に限られ、人家の床下や戸袋等にも巣を作ることが知られています。また、本種はアシナガバチ類専門の捕食者という点でもスズメバチ類としては最も食性の特殊化が著しい種類です。

今回紹介したヒメスズメバチは、スズメバチ類の中では、性格は最もおとなしく、人を襲うことはほとんどありません。しかし、本種以外のスズメバチ類、特に数の多いキイロスズメバチやコガタスズメバチは攻撃性が比較的に強いので、スズメバチ類を見かけたら、騒がず、あわてず、できるだけ、静かに遠ざかるようにしたほうがよいでしょう。(石川和宏)





水のお話 佐須用水編④

昔はいたるところに水路があった

前回の続きです。深大寺自然広場東側の丘、通称「かに山」の名前の由来は、湧き水にサワガニがたくさんいたことによります。同様にヘビ山という愛称を持つ布田崖線のハケも布田 6 丁目にあります。農家の方の話や古い地図によると深大寺自然広場の南側にはため池があり、水車小屋が5箇所もありました。また、生活用水となる井戸を掘るための地下水脈の探し方が民間の伝承に残っています。その地下水のルートは「水道（みずみち）」と呼ばれます。

現在では、これらの浅井戸よりもっと深い地下から、私たち調布市民の飲料水をくみ上げて利用しています。以前、調布市は独自に水道を持ち、地下水をくみ上げ、それに東京都水道局から購入した上水を併せて市民に供給していました。深大寺五差路にある東京都深大寺浄水場です（平成 12 年 4 月、都水道局に統合）。調布の飲料水の 6 割以上は地下水で賄われています。調布は豊富な水資源に恵まれているのです。

佐須用水に話を戻します。人が暮らしていくうえで水は欠かせません。多摩川から取水した玉川上水の支流はその流域周辺から調布にかけて網の目のような水路を張り巡らせていました。近世から昭和初期、旧深大寺用水の支流は佐須用水の支流と交わり、深大寺自然広場以



かに山の崖線下を流れる湧き水。かつては佐須用水の支流で旧深大寺用水と合流していた。

東の国分寺崖線沿いに流れていたことがあります。それら多くの用水が当時生活用水として使われていた記録が残っています。また、本紙編集委員の過去の聞きとり調査では、中央高速の工事が行われる前までは、深大寺から元町まで流れていた水を、ひしゃくですくって飲んでいた家があったそうで、きれいな頃は飲み水としても利用され、そのような水環境が守られていたとのこと。……続く（こんどう）

◆ カニ山の会

9/8（土）晴れ 10:00~12:00
参加者 6 名

上段東側を中心に笹刈り、除伐、シュロ切り林床整備作業を行った。

終了後の感想として・林床がすっかりしてきて、風が通り気持ちよかった。当初に比べて風が通るようになったように感じる・カニ山に近づいて、田んぼの横にいくと涼しく、緑の冷却効果を感じた・ノコギリの使い方が上手になってきた・台風の影響でドングリが沢山落ちていた・ドングリを食べる動物たちへの影響が心配だ・意外とササが伸びていなかった。←暑すぎた？（ブドウや野菜も雨が降らずに暑い日が続いたので出来が悪いそうである。）などがあがった。

その他、昨年度大学の実習で活動に参加していた後藤さんより、報告書の提供をいただいた。



実る前に台風で落ちてしまったドングリ

他に台風の影響で、上段西端のコナラ（？）の先端が折れていた。落下した場合、西側の通路への影響が懸念される。（小島）

◆ 環境モニター

9/1（土）晴れ 10:00~12:00
参加者 9 名+3 名（スタッフ）
多摩川ニヶ領上河原堰付近から芝の広場手前までの植物観察をした。

今年始めから 4 月にかけて堰の辺りで浸食災害を防ぐための大規模な工事がされていたため、土手に新たな芝張りがされていた。小澤講師から「こういう土の入れ替えのあった所は記入を別にして何が出てくるのか観察するのも面白い」とのお話があった。（今回の工事は土の掘り返しはあったが、別の土を入れたかどうかは不明）

ホオキギクとヒロハホオキギク、ヒメジョオンとヘラバヒメジョオンの違いなどを観察。中間型と思われるものも多い。ニガカシュウという比較的めずらしいヤマノイモ科の植物も見られた。

調布の自然回復を予感させる シロマダラとの出会い

9月某日早朝、三鷹市大沢の公共施設にて見慣れない蛇を捕まえました。調べたところ、その特徴から最近生まれたばかりのナミヘビ科シロマダラの幼体でした。人目につくのは稀で、個体数も多くないということなので大変驚き、これは慎重に自然に帰さなければと思って、いろいろと調べたり、尋ねたりしたところ、「ぜひ僕に譲ってください。責任を持って飼育します」という返事がくるほど。



(財)日本蛇族学術研究所や上野動物園、両生爬虫類館の職員さんのお話では、このヘビは昼間見つけるのが難しく、まるでクワガタのような隠れ方をしていることや、地方行政によっては準希少種に指定されていること、多摩地区でも一般民家での発見が年何件か報告されていることなどがわかりました。多くの方に迷惑をかけながら、いろいろとお話を伺い、自然に帰す適当な環境を教えてくださいました。

この偶然の出会いは、たった一日の出来事でしたが、シロマダラとのお別れの時あたりから、このヘビへの愛着心の芽生えだけではない、もっと大きな気持ちの動揺が始まり「もしかしたら身の回りの自然には、結構たくさん生き物たちが帰ってきているのかも…」という予感が閃きました。シロマダラの食性は、同じヘビの仲間やトカゲです。つまり食物連鎖のピラミッドの上ではかなり上位に位置し、それを支える多くの生産者や中間消費者たちの存在があることを意味します。「野川公園周辺のフィールドにはシロマダラが繁殖できるほどたくさんの生き物たちが暮らしている」。帰り道、そういう考えにいたったときは、生き物のたくましさや、未来の自然回復の可能性を垣間見た感じで頭と胸が一杯になり、ちょっと立ち止まってしまいました。(こんどう)

この偶然の出会いは、たった一日の出来事でしたが、シロマダラとのお別れの時あたりから、このヘビへの愛着心の芽生えだけではない、もっと大きな気持ちの動揺が始まり「もしかしたら身の回りの自然には、結構たくさん生き物たちが帰ってきているのかも…」という予感が閃きました。シロマダラの食性は、同じヘビの仲間やトカゲです。つまり食物連鎖のピラミッドの上ではかなり上位に位置し、それを支える多くの生産者や中間消費者たちの存在があることを意味します。「野川公園周辺のフィールドにはシロマダラが繁殖できるほどたくさんの生き物たちが暮らしている」。帰り道、そういう考えにいたったときは、生き物のたくましさや、未来の自然回復の可能性を垣間見た感じで頭と胸が一杯になり、ちょっと立ち止まってしまいました。(こんどう)



平成 19 年度 「雑木林塾開講」

9月16日(日)、布田崖線に近い第三小学校を会場に、今年度の雑木林塾が開講しました。当日は好天に恵まれ、30度を越す暑い一日でした。

ガイダンスの後、スタッフも含めて和気藹々と自己紹介。続いて、環境政策課の青柳が調布市の自然の概略について講義。昼食をはさんで、根本淳さんから「植生という自然認識の仕方～身近な自然に目を向けるヒント～」と題した講義があり、受講者からは「質疑応答を交えながらの講義で、幅広い知識が身に付いた」「専門的な話が聞けて感激」との感想をいただきました。

昨年度は29名の受講申込みがありましたが、今年はわずか8名。当日の出席者はその半分の4名と、主催者としてはさびしい限りです。しかし、質疑の機会が多くなることや、アットホームな雰囲気など、少人数ならではのよさもあります。また受講者の皆さんの強い意欲も伝わってきて、今後が楽しみです。次回からは、いよいよフィールドに出るの体験活動が始まります。(環境政策課；島崎真司)



講義後、外に出て、根本先生の解説を受けながら布田崖線の樹林、凸凹山児童遊園、若宮八幡神社などを見学。

◆入間・樹林の会

9月16日は三連休の中日のためか参加者が少なく4人で作業しました。関東直撃の台風の被害はそれほどなかったものの、小枝が散乱していました。8月に生い茂っていたクズは姿がなく、バスター隊はがっかりしていました。マテバシイ広場の通路のヤブミョウガなどを刈り取り整備すると見た目もよくなりました。少しの作業で随分変わるものです。マテバシイ広場を見渡すと、まだまだ陽がささず暗い感じなので、立ち枯れ木の伐採やマテバシイやシラカシ・杉などの常緑樹の伐採が必要だと意見がでました。

11月からは緑地整備が始まるので整備をどのようにするか、今後の会の運営を会員制にしていくことな

ども久しぶりに協議しました。

花は、トネアザミ・キンミズヒキ・ミズヒキ・ギンミズヒキ・ハエドクソウ・ヤブラン・ヤブミョウガが、実はチジミザサ・スゲなどが。来月は、隣家との境界域(シャガの広場)の下草刈りと方形枠調査を予定しています。(安部)



キンミズヒキ

ミズヒキ



一口メモ

きれいな紺色の実をつけるヤブミョウガ。入間樹林では花を咲かせているようです。但しこれはツクサの仲間で、食用にするミョウガはショウウガ科です。葉の形が似ていることから付いた名前ようです。

メンバー随時募集 ☆ 環境市民 活動カレンダー & おしらせ ☆

◆環境モニター

※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。

10/6(土) 9:30~12:00

集合場所：野川、馬橋

内容：箕輪橋までの植物調べ

持ち物：筆記用具・図鑑・ルーペ・カメラ・飲物

問合せ：環境政策課 042-481-7086

◆カニ山の会

10/13(土) 10:00~12:00

集合場所：深大寺自然広場(野草園横)

内容：植物調べ等

※原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へおいで下さい。

※会費500円+保険料500円(年間)

問合せ：環境政策課 042-481-7086

◆入間・樹林の会

10/21(日) 9:30~12:00

集合場所：入間地域福祉センター

内容：下草刈及び方形枠調査

※原則毎月第3日曜に活動しています。興味のある方は直接入間地域福祉センターへお越し下さい

問合せ：環境政策課 042-481-7086

ちょうふ あちこち

台風の後の多摩川上河原堰の魚道。中洲に入れたと思われる砂利が魚道に流れ込んでしまった。河原には大きな木が倒れているなど、かなりようすが変わっている。9/1に環境モニターで観察したニガカシュウやクコの実などの植物は影も形も無くなってしまった。



環境モニターによる「そぞろ歩き」参加者募集

10月27日(土)

仙川駅から南へ下り、国分寺産線の雑木林を観察、地元の方に昔の様子を聞いた後、明照院までそぞろ歩く予定です。詳しい応募方法は10/5の市報を御覧下さい。

国分寺産線の整備・工事のお知らせ

若葉町3丁目第3緑地(10月~12月)と入間町1丁目緑地(11月~2月予定)の散策路、フェンス等の整備工事を実施します。この期間中、緑地内は、立ち入り禁止にしますので、ご協力をお願いします。

緑と公園課(Tel 042-481-7083)

環境政策課の窓



両腕で地球を「e」の形に抱きしめるデザインや、地球儀とGをあしらったマークを見たことがありますか。環境に配慮した製品に付けられるロゴマークです。

調布市役所は、こうした製品を選んで購入するネットワークに参加しています。全国3千の事業所、総従業員数500万人が会員になっています。

この10月、全会員が一斉にレジ袋を断るキャンペーンを実施します。レジ袋は年間300億枚が使われていますが、500万の会員が1ヶ月間レジ袋を断ると、1億枚以上の削減効果があります。

またレジ袋は、製造から廃棄処分の間で1枚当たりCO2を100g排出すると言われていたため、このキャンペーンで1万トンのCO2削減効果が期待できます。

みなさんも、買い物にはマイバッグを持参して、レジ袋削減にご協力ください。(青柳聡史)

編集後記

9月の初めにフィンランドとスウェーデンに行ってきた。日本と大して変わらない面積に人口は10分の1もない。白樺林の中の住宅、ハマナスの垣根。ここは別荘地帯かと思うような住宅街。都心のビルもせいぜい10階建て。スーパーのリサイクルはピンなどを入れると自動的にチケットが出てきて、そのチケットで次回は割り引きされるという仕組みのようだった。もう少し若かったら、退屈な国という印象だったかもしれないが…。(鍛冶)

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先:調布市環境政策課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

調布市ホームページでカラー版がご覧いただけます

→市公式HP→くらし→環境・緑化→ちょうふの自然だより